

渋谷の荘だより

いま い みらい にな しがちゆうせい
「今を生き 未来を担え 渋谷中生」

やまとしりつしぶ やちゆうがっこう
大和市立渋谷中学校



かどう ぶいんさくひん
華道部員作品

1学期の中盤は、学年ごとに大きな行事がありました。生徒に集団でしか味わえない醍醐味を行事を通して実感させ、学年の一員としての自覚と絆を深めて貰いたいと願っています。温かく見守ってくださった保護者の皆様ありがとうございました。



しゅうがくりょこう お 修学旅行を終えて

じっこういんちよう なかむら しょうへい
実行委員長 中村 翔平



生徒にとっては学校生活初めての、私にとっては教員生活初めての修学旅行。生徒も私も、本来は3年前に
行っていたはずでしたが、当時の状況ではそれが許されませんでした。

周りの先生方は「これからたくさん修学旅行に行くから」と私に言ってくれました。確かにその通りですが、今一
緒に過ごしている生徒と行く修学旅行は、たった1回。そんな想いを胸に、「生徒にとって思い出深い修学旅行に
する」ことを考え、計画を進めました。

しばらく雨予報が続き、諦めていたところ当日朝の予報から天気が好転。後半2日間は晴れという素晴らしい
天気。初日は朝から高座渋谷駅、大和駅、新横浜駅のそれぞれに他学年の先生方も来てくださり、本当に愛さ
れている生徒達であると感動。保護者の方の見送りを新幹線内から見て、また感動。

新幹線内は大いに盛り上がりましたが、決められた時間には席に戻って降車準備。一つ一つの行動に成長を
感じました。奈良公園では、有名な金剛力士像や大仏を見るものの、生徒は鹿の方に興味津々な様子。その後
は雨の平等院を拝観し、ホテルへ。ホテル到着後は、きれいで広いお部屋に感動したのも東の間、自由時間でま
た大盛り上がり。

2日目は、班別自由行動。各班が計画した場所へ行き、タクシーの運転手さんから様々な案内を受け、至れり
尽くせりでもとても楽しかった様子。私は生徒とともに二条城と東寺を見学し、改めて歴史の奥深さと、先人の知恵
に驚きました。戻ってきてからの学年集会も存分に楽しみ、興奮冷めやらぬまま、就寝。

3日目は朝から清水寺周辺での班行動。有名な
清水の舞台を見学したのちは、班別でお土産を買った
り、食べ歩きをしたりと、思い思いの時間を過ごしまし
た。帰りの新幹線では、元気いっぱいの生徒たちをよそ
に、我々教員は疲れ果ててしばし休憩。帰りのお迎えも
ありがとうございました。

これまで、様々な制限を受けて生活してきた生徒達
ですが、緩和された状況下でルールを守り、その中で存
分に楽しみ、学び、思い出に残る修学旅行になったの
であれば、幸いです。



キャンプを終えて 実行委員長 奥 光史郎

2年生は、6月6日～7日に一泊二日でキャンプに行ってきました。2年生の学年目標は「感全燃笑 ～何度転んでも立ち上がれ never give up～」です。全員で情熱を燃やし、感動と笑顔あふれる一年にしたい、という願いが込められています。この学年目標を胸に、キャンプでたくさんの経験から学習をしてきました。

キャンプの様々な経験で学んできたことは「当たり前」が「有り難いこと」であるということです。人類は、祖先の時代から道具を作り、それを扱い、やがて社会というものを築き、人類が豊かで便利に生活できるように発展してきました。一方で、便利さと引き換えに様々な「有難いこと」が「当たり前」に感じてしまうようになりました。

例えば、給食の献立で出るカレーライス。この一皿のカレーの背景には、野菜を作る農家さん、牛や豚や鳥を育てる畜産農家さん、それを調理場で調理する調理員さん、それを運ぶドライバーさん。様々な人の尽力でカレーが届けられます。そこには、私たちが想像もできない様々な苦労があるはずですが、こんなに有難いことも当たり前で感じてしまうのです。

キャンプでは、煙でしみる目の痛みには堪え、みんなで汗を流して、苦労して一杯のカレーライスによやくたどり着きます。カレーを作る大変さを感じながら、自分たちの力で作ったカレーはいつもの何倍も美味しく感じたことでしょう。カレーを作り終わった生徒からは「毎日こんな生活ならいいのになあ」と感嘆の声が聞こえてきました。「自分たちの食事を自分たちで作って食べる」こんな当たり前で生活にこそ幸せが隠れているのだと再確認させられました。

周囲の人の存在も「当たり前」に感じてしまうことの一つです。しかし、キャンプを通して、誰もが欠かすことのできない存在であることを実感できたはずですが、炊事やウォークラリーでは、全員で協力し目標の達成に挑みました。バンガローでも、お腹を抱えて笑い合っている姿がありました。キャンプファイヤーは、あいにくの雨に降られ途中からはキャンドルファイヤーになってしまいましたが、暗闇の中で同じ火を囲み、練習してきたクラススタンツや学年ダンスで大いに盛り上がりました。キャンプファイヤー最後の瞬間には、中央にあった火を分火し、それぞれのトーチに火を灯します。その火を見つめながら、心にも火を灯す儀式です。それぞれの心に火を灯し、隣にいる友人、一緒に学ぶ赤学年の仲間たち、帰りを待っている家族、それぞれの大切な人を思いながらキャンプソング「花の名」を歌いました。楽しかったキャンプファイヤーが終わりを迎える時には、全員が同じ気持ちで「もう少しだけ、このままでいたい」そんな暖かい雰囲気にも包まれていました。となりで優しく笑ってくれる人がいる。それだけで、有り難く幸せなことなのだと感じてくれていることを願います。

キャンプを通して様々な経験で得た学びは、生徒の心に灯りました。しかし、その火はまだ小さく、火種にしかすぎません。火は薪を絶やせば、やがて消えてしまいます。心に灯した火も同様です。これからの学校生活の様々な経験で、火を強く、より大きくして行ってほしいと願っています。



《生徒の心に灯を授けようと、職員が願いを込めて点火しました》